

南アフリカ為替週報

2022 年 1 月 20 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(1 月 13 日～1 月 19 日)

USD/ZAR: 15.2625～15.5700
ZAR/JPY: 7.36～7.50 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は、対ドルでは、軟調気味の横ばいから、19 日になって反発。対円では、断続的な下押しが先行したが、やはり 19 日になって反発した。19 日のランド反発は、同日発表された南ア 11 月 CPI の上振れを受けた反応で、1 月 27 日の南ア準備銀金融政策委員会に向けて、利上げ見通しがぐっと高まったことを反映した値動き。他に、この間、南ア固有の要因は乏しく、13 日に前後した対円での下落は、円全面高の一環と見られたものの、その要因は定かではなかった。18 日に予定された日銀金融政策決定会合に向けて「物価予想が上方修正される(=敢えて深読みすれば金融引き締めに向けた第一歩)」との思惑が広がったことや、中国株の下押し(～14 日)や北朝鮮のミサイル発射(14 日)などを受けたリスク回避などが囁かれたが、これと言って決め手となるような円高要因があったとは思われなかった。18 日のランド下押しも、米長期金利上昇を受けたドル高、新興市場(高金利)通貨全面安の一環と考えられた。同日、米 10 年国債利回りは 20 年 1 月来(コロナ禍本格化以前)初めて 1.8%台にまで上昇した。ただ、米長期金利上昇の要因も、特段の新規材料があったと言うよりは、「米連銀の積極的な利上げ/早期の量的引き締め観測が強まった」といった漠然とした思惑の広がりが後押ししたように見えた。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
1/18	9:30	鉱業生産(前年比)	11 月	+5.2%	+3.5%	+2.2%r
1/19	8:00	CPI(前年比)	12 月	+5.9%	+5.7%	+5.5%
	11:00	小売売上高(前年比)	11 月	+3.3%	+2.0%	+1.9%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

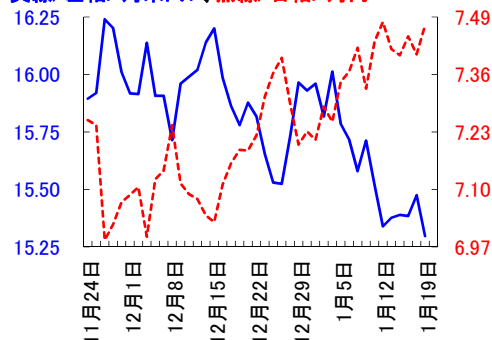
(1 月 20 日～1 月 26 日)

USD/ZAR: 15.150～15.500
ZAR/JPY: 7.350～7.50

向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、方向感を欠いた横ばいを中心に予想。敢えて選ぶならランド軟調推移を警戒する。横ばい、或いはランド軟調を見込む理由は、19 日に強まった南ア準備銀利上げ観測に、確信が持てないから。より正確に言うなら、12 月 CPI の上振れを受けて、1 月利上げの可能性は実際に強まったと思うものの、1 月の 25b.p.利上げは、年明け直後から既に完全に織り込まれており、市場の織り込みが 19 日になってもう一段進んだかという、実はそういうわけでもないから。それ以上に、金利先渡(FRA)市場が織り込むような「向こう 6 ヶ月で計+125b.p.」のような見通しは、些か「踏み込み過ぎ」のように感じられるから。上振れたとは言え、前年比+5.9%は未だ南ア準備銀誘導目標(+3～6%)に収まる水準だし、上振れの大半は食品価格、交通費(燃料価格)といった外的要因で、金融政策で直接対応できるものではなかった。また、近年、南ア物価は 2 月に大きく上伸する傾向を示しているが、1 月は比較的安定しており、1 月 CPI が同+6%以下に収まる可能性も十分に考えられる。ただ、2 月 CPI が同+6%を超えてくるのはほぼ確実で、仮に 1 月利上げを見送り、その次の金融政策委員会(3 月 24 日)で利上げとなると、2 月物価の上振れを確認した後で漸く重い腰を上げたという印象を与え、政策対応が後手に回っていると受け止められかねない。従って、「1 月利上げの蓋然性は高い」という結論になるわけだが、ランド押し上げ要因として、そこには何の新味もないのではないか(12 月 CPI が、仮に市場の予想通り前年比+5.7%だったとしても、全く同じ議論をしていたのではなかろうか)。一方で、金融市場の関心は、程なく 2 月 10 日のラマポーザ大統領による一般教書演説(SONA)、2 月 23 日の予算発表に移っていくものと見込まれるが、相変わらずゴドングワナ財務相の影が薄いのは、南ア経済にとっても、ランドにとっても、好材料とは思えない。

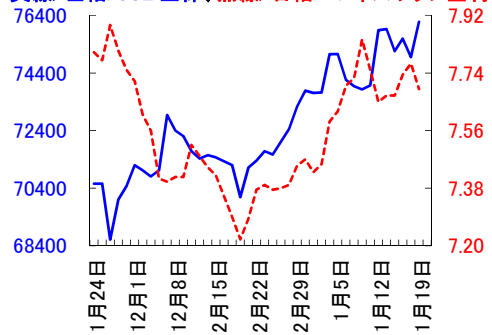
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.75%
長期金利(10 年スワップ)	1 月 19 日	7.690%
株価指数(JSE 全株)	1 月 19 日	76176.15
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	11 月	+5.5%
小売売上高(前年比)	10 月	+1.8%
製造業生産(前年比)	11 月	-0.7%
鉱業生産(前年比)	10 月	+2.1%
貿易収支(ZAR)	11 月	+35.8bn
金価格(ロンドン 17:00)	1 月 19 日	1840.22

＜お詫びと訂正＞

上表中の「政策金利」が昨年 11 月 18 日の利上げ以来(3.50→3.75%)、ずっと 3.50%のまま更新されていなかったことに今日になって気付きました。深くお詫びすると共に、謹んで訂正させていただきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。